

河岸は河川景観や生物の生息場所・移動経路としての役割を担っています。

特に中小河川においては川幅に対して河岸の割合が大きくなるため河川環境における河岸の役割は大きくなります。しかしながら、河川改修などにより河岸の環境機能が劣化している例が散見されます。河岸の環境機能を保全するためには、どのような機能に着目してどのような河岸形態にすればよいのでしょうか？

控え護岸(元町川:岩手県)
Photo by Shinichi Yoshimura

河岸の持つ環境機能は河岸形態によって違います

河岸の環境機能



自然河岸

控え護岸

露出護岸

従来護岸

自然な河岸形態

良好な河岸・水際部は保全する。



河川景観機能

河畔林による陰影や自然に形成された河岸・水際部によって複雑な地形が形成されており、その場所の特性に応じた景観が形成されている。

自然環境機能

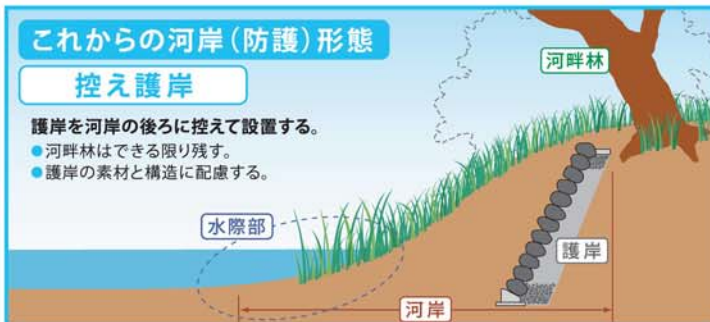
| | |
|-------------|--------------|
| 河畔林・・・○あり | 有機物量・・・○多い |
| 温度変動・・・○小さい | 土壌硬度・・・○軟らかい |
| 緑被率・・・○高い | 起伏量・・・○大きい |
| 土壌湿度・・・○高い | 連続性・・・○高い |

これからの河岸(防護)形態

控え護岸

護岸を河岸の後ろに控えて設置する。

- 河畔林はできる限り残す。
- 護岸の素材と構造に配慮する。



河川景観機能

護岸は見えず、自然に河岸・水際部が形成され、自然河岸に近い景観となる。

自然環境機能

| | |
|---------------|--------------|
| 河畔林・・・△残す(植樹) | 有機物量・・・○多い |
| 温度変動・・・△中 | 土壌硬度・・・○軟らかい |
| 緑被率・・・○高い | 起伏量・・・○大きい |
| 土壌湿度・・・△中 | 連続性・・・○高い |

露出護岸

護岸を河岸表面に設置する。

- 河畔林はできる限り残す。
- のり肩と水際部に植物を繁茂させる。
- 護岸の素材と構造に配慮する。



河川景観機能

護岸の見える面積……………△小さい
護岸部の境界……………△曖昧で和らいている
護岸の明度(明るさ)……………△低い
護岸のテクスチャー……………△適度に有している

自然環境機能

| | |
|-----------|------------|
| 河畔林・・・△あり | 有機物量・・・△中 |
| 温度変動・・・△中 | 土壌硬度・・・×硬い |
| 緑被率・・・△中 | 起伏量・・・×小さい |
| 土壌湿度・・・△中 | 連続性・・・△低～中 |

これまでの河岸(防護)形態

従来護岸

護岸を河岸表面に設置する。

- 河畔林は伐採される。
- 単調な河岸・水際部となる。
- 護岸が目立つ。



河川景観機能

護岸の見える面積……………×大きい
護岸部の境界……………×明確で硬い
護岸の明度(明るさ)……………×高い
護岸のテクスチャー……………×ない(画一的に見える)

自然環境機能

| | |
|-------------|-------------|
| 河畔林・・・×伐採 | 有機物量・・・×少ない |
| 温度変動・・・×大きい | 土壌硬度・・・×硬い |
| 緑被率・・・×低い | 起伏量・・・×小さい |
| 土壌湿度・・・×低い | 連続性・・・×ない |

※護岸による河岸防護は、河岸・水際部の設計の中で慎重に判断し、護岸設置の必要性がある場合に限り活用する。